北九州魅力☆フォトコンテスト
宮地嶽撮影会

写真入門、受賞者続々
特筆もの12期生の活躍

各種コンテストで写真入門コースの修了生の写真作品が最優秀賞や特選、秀作、入選を果たした。ほとんどが12期生で占められた。

北九州市制50周年記念 北九州魅力☆フォトコンテスト

北九州青年会議所が募集した「北九州魅力☆フォトコンテスト」で、写真入門コースを一昨年修了した十二期生の田渕昭彦さんが652点の応募作品の頂点に立つ最優秀賞に選ばれた。

田渕さん

このコンテスト、景観・自然環境・人物・カルチャーの四部門にそれぞれ優秀賞が一名ずつ。その上位が最優秀賞で一名。田渕さんは人物部門に応募した。

作品は10月13日、小倉北区のリバーウォーク北九州で展示され約400名が参観。同時に、専門家による審査も行われた。

宮地嶽モデル撮影会

宮地嶽モデル撮影会（朝日新聞社主催）は6月16日宮地嶽神社で三人のモデルを招いて行われ審査の結果、神林シツ子さん（地域ふれあい）が特選、高田一美さんが秀作、中村節子さん・大川富江さん（絵画入門）・井上茂子さん（健康管理）の三人が入選した。

神林さん

神林さんは写真入門コースの七期。高田さん・中村さん・大川さん・井上さんは、いずれも十二期の修了生。

北九州魅力☆フォトコンテスト最優秀賞の田渕さんを含め「花の十二期」ともいえる活躍は特筆もの。

なお神林さんは、一昨年から三年連続で福岡県展の写真の部で入選を果たしている。

大島へ一泊二日で歴史探訪の小旅行

盛谷　靖夫（心と身体の健康）

9月19日から一泊二日で宗像市大島を訪れたのが、心と身体の健康コースの有志七人。ご夫婦での参加も一組あり、遠く宗像大社の沖津宮を祀る沖ノ島を遥拝。世界遺産登録の話題で盛り上った。

大島は、響灘と玄界灘の境にあり、福岡県では一番大きな島。古代から、宗像三神の一神・湍津姫（たぎつひめ）神を祀る宗像大社中津宮がある。中津宮の裏手に小川が流れていて「天の川」といい、七夕伝説の発祥の地とも言われている。

夜は、お待ちかねの大宴会。宗像七浦の一つに数えられる漁業の島とあって、新鮮で豊富な海の幸を堪能。親睦と歴史探訪の小旅行を楽しんだ。

大島風車展望台付近を散策

ふれあい広場

投稿大歓迎。三百字程度にまとめて、コースの新聞編集委員にお渡しください。

山古志村の鯉

折本　洋子（歴史に学ぶ）

新潟県中越地震で壊滅的被害を受けた山古志村。復興を果した村の養鯉業者さんを、何とか探し当てたのが五年前。鯉の稚魚を五匹譲り受けた。

「育つだろうか?」「いや、育てなければ…」。どっと、荷が重くなった。

水質や餌の管理。夏は日差しを、冬は雪を避け…。我ながらよく努力した。

あの地震から10月23日で九年が経つ。いま、池狭しと泳ぎ回る色鮮やかに成長した山古志の鯉の姿を見て、被災者の方たちに、私の小さな小さなエールが、届いてくれれば…と思う。

乳酸菌は如何

増田　勝（暮らしと環境）

足のふくらはぎが第二の心臓といわれるように、腸は第二の脳といわれている。この腸に良いと、昔から知られているのが乳酸菌。今、静かなブームのようだ。腸のみならず、体の活性化に役立つという。是非一度試してご覧あれ。

糸島の王の墓

高橋　恒夫（歴史に学ぶ）

「倭人伝」に一大率が置かれていたとの記述がある伊都国。現在の糸島市を中心とする旧糸島郡一帯を指すと考えられている。ここには、三雲南小路・井原鑓溝・平原の三基の王墓が確認されていて、平原遺跡の棺外墓壙（かんがいぼこう）からは、大鏡5枚を含む40枚以上の鏡が出土しているが、これは出土数の日本記録といわれている。

木棺の主軸は日向峠に向けて埋葬されており、その主軸上に直径650ミリの大柱を立てた遺構を確認。副葬品も豪華で、棺内からはメノウ管玉12個、ガラス管玉30個以上、ガラス小玉約500個のほか、ガラス連玉多数が出土した。

この古墳は、弥生時代後期のものと思われるが、先に、いのちのたび博物館で催された「市制50周年記念・邪馬台国が見える!」にも、平原遺跡からの発掘品が展示されていた。

糸島市にある弥生時代後期の平原遺跡

編集後記

今号は、大学祭特集号です。スペースに限りがあり、各コースや20を超えるグループ・団体の活躍ぶりを、全てお伝えできなかったことは、些か心残りです。なかでもオータムコレクションは、祭りの目玉として盛上りました。できる限りその賑いをお伝えしたかったのですが、力およばず、残念です。

新聞編集委員会　委員長　岡本　睦彦

編集担当＝熊懐春代・橋本領子（健康づくりサポーター）　増田勝（暮らしと環境）　折本洋子（歴史に学ぶ）